

## 平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成29年6月30日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属視覚特別支援学校	校長名	柿澤 敏文
幼児・児童・生徒数	182	学級数	37
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>本校は、視覚に障害がある幼児・児童及び生徒に対して、障害を克服し、人間として調和のとれた発達を図り、積極的に社会に参加し貢献することができる人間を育成することを目標とする。</p> <p>そのため、幼児・児童及び生徒の有する感覚を有効に活用し、個人の自主性と個性を尊重して、社会生活における自主的な思考力・判断力並びに積極的な行動力を養い、主体的に社会に参加していくための知識・技能・態度及び習慣を養うことを基本方針とする。</p>		
② 学校経営方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 3つの拠点構想(先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点)に基づき、視覚障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。</li> <li>2) 大学や他附属、特別支援教育センター等と連携して特別支援教育を推進する。</li> <li>3) 教科指導、自立活動の指導、生活指導、進路指導等を充実させる。</li> <li>4) 安全で安心して学習・生活のできる環境の整備を図る。</li> <li>5) 保護者や地域住民の協力を得ながら、開かれた学校づくりを目指す。</li> </ol>		
③ 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個々の幼児・児童・生徒の実態や課題に応じた指導体制の整備・充実を図る。</li> <li>2. 早期教育段階における支援の充実を図る。</li> <li>3. 学校、寄宿舎間の連携を密にした生徒指導に取り組んでいく。</li> <li>4. 校内研修・研究体制の充実を図りながら質の高い専門性の提供を行う。</li> <li>5. 国際交流教育の推進を図る。</li> <li>6. 教育実習・臨床実習・職場実習等の取り組みの充実を図る。</li> <li>7. 危機管理体制の徹底を図る。</li> </ol>		
④ 前年度の成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学及び特別支援教育研究センターを始めとする関係諸機関と連携し、研究協議会、研究会、研修会等を通して視覚障害に関わる教育実践ならびに研究を推進した。</li> <li>・「視覚障害教育ブックレット」を継続的に発行し、教育実践・情報の発信に努めた。</li> <li>・特別支援教諭免許状認定講習における指導法の講座および教員免許状更新講習において、指導法の提供と附属学校間および大学との連携を生かした講習を行った。</li> <li>・グローバル人材育成を念頭に教育活動を進めると共に、実際に「トビタテ JAPAN」の機会や教育長裁量経費を利用した企画を通して、チェコやタイの障害者とも交流をした。また、アジア諸国からの留学生を支援するだけでなく、現地を訪問し帰国後の状況についての情報交換も行った。</li> <li>・大学・附属学校連携小委員会を定期的に開催し、障害科学域や学校教育局との連携協力を図ると共に、学生の調査・研究、教育実習、介護等体験に積極的に協力した。</li> <li>・体育館の冷房工事並びに屋根の遮熱工事が行われ、夏季においても快適な練習環境を提供することが可能となった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備</li> <li>・プール等体育関連施設、調理室を改修し、学習・生活環境整備をすすめる。</li> </ul>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

1. 個々の幼児・児童・生徒の実態や課題に応じた指導体制については、ほぼ達成出来ている。
2. 早期教育段階における支援の充実については、継続して取り組む必要がある。
3. 学校、寄宿舎間の連携を密にした生徒指導については、様々な問題に対応出来るよう今後とも研修が必要。
4. 校内研修・研究体制の充実を図りながら質の高い専門性の提供は、今後も行えるよう継承する努力が必要。
5. 国際交流教育の推進を図るについては、様々な機会をとらえて実施できた。
6. 教育実習・臨床実習・職場実習等の取り組みの充実は、ある程度図れた。
7. 危機管理体制の徹底は、様々な状況に対応するため、今後とも図っていく必要がある。

### 4 来年度の学校課題

インクルーシブ教育システム構築に向けての実践的検討と体制整備  
プール・グラウンド等体育関連施設、調理室を改修し、学習・生活環境整備をすすめる。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

大学、他附属や地域の学校等と連携し、交流をさらに発展させる形で実現が可能か検討する。  
大学からの支援または、外部資金で実現出来るかどうかを探ってみる。